

奈良支部

観光都市奈良の宿泊客の実態調査 ～宿泊観光客を増やすための提言～

本年度の「調査・研究事業」は、当支部で行ってきた、観光調査シリーズの5回目として「観光都市奈良の宿泊客の実態調査～宿泊観光客を増やすための提言～」に取り組んだ。

奈良は、日本の歴史や文化発祥の地であり、観光客を引きつける観光資源が数多くあるにもかかわらず、宿泊客数は全国最下位という結果となっている。

今回「奈良の宿泊観光客を増加させるためにはどうしたらよいか」を明らかにし、奈良の観光振興に役立つ方策を探るため、次の項目についての調査を行った。

1. 観光客（首都圏在住者・奈良への来訪者）の宿泊施設選定についての意識調査
2. 旅行会社の奈良観光に対する戦略
3. 宿泊施設の実態（ハード・ソフト）

今回の調査により、恵まれた観光資源がありながら、有効に活かしていない実態が明らかになった。

報告書では、

1. 観光スタイルの変化に対応した施設のハード・ソフトの遅れ・団体客や修学旅行客から個人客へのシフトが進んでいないこと
2. HPにおいて外国人向け表記がなされていない宿泊施設が大半であること
3. 奈良の観光地としての魅力度の訴求不足
4. 観光地として、おもてなしの心の醸成の必要性
5. 行政や関係団体の連携の不足など、オール奈良としての取り組みの不足
6. 多くの奈良観光客が「奈良は日帰りで十分」と思っている実態

を明らかにした。

報告書では、調査結果に基づき、「奈良の宿泊観光客を増やすための魅力づくり」「奈良観光PRの強化」「魅力ある観光メニュー」を具体的な施策として提案している。

診断協会奈良支部では、本報告書の提言により、関係諸団体が大仏商法からの脱却を基底にして、「日帰り観光地」から「宿泊をさせていただいてゆっくと奈良の良さを感じ取っていただく観光地」へと変わるための行動への、ワンステップとなることを期待するとともに、「地域資源活性化プログラムの活用」や「農商工連携」による事業として、地域の活性化が実現できるよう支援して行く体制をとるようにしている。